

数理科学研究科 学位記授与 研究科長祝辞

本日ここに学位記を授与される皆さん、おめでとうございます。晴れてこの日を迎えられる皆さんに、東京大学大学院数理科学研究科の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。皆様が研鑽に励まれ、修了のこの日をお迎えになったことに敬意を表します。今回は新型コロナウイルス感染拡大により、本来の形で学位記授与式を挙げることは誠に残念ですが、御家族の皆様、御友人、御支援頂いた皆様、心よりお祝い申し上げます。これまで長きに亘るご支援に感謝いたします。

皆さんは、数理科学研究科で、学位論文において、自身で設定した課題について考察して、独自の結果を導き出しということを成し遂げられました。すなわち、新しい知を自ら生み出すということに挑戦されました。数学は長い歴史をもつ学問ですが、皆さんは、学位論文という形で、その歴史に確実な発展の一步を記された訳であります。これは、たとえ小さな一步であっても、数学の歴史の中で普遍的な価値をもつものであり、皆さんはご自身が成し遂げられた成果について誇りをもっていたきたいと思います。これから数学の分野でさらに探求し、研鑽を積まれる皆さんにとっては、学位論文は、これからの研究の核になるものであります。また、社会に出て活躍される方にとっても、学位論文を通して得られた、緻密な考察を積み上げて、論理的に自ら考え抜く力は今後の大きな糧となるものと思います。

東京大学では、数学の分野で、世界をリードする多くの人材を輩出してきました。2015年に、生誕100年を迎えた小平邦彦先生は、東京大学理学部数学科と物理学部を卒業され、アメリカでの滞在を経て東京大学でも教鞭をとられました。私は理学部数学科の学部学生のとときに小平先生の談話会を聴く機会があり、今でも鮮明に記憶しています。小平先生はそのとき複素多様体の変形理論について語られました。現在、Kavli IPMUなどでも活発に研究されている数学と物理の先端的な話題であるミラー対称性は、シンプレクティック幾何学と複素多様体の双対性とよぶべきものであります。そこでは、小平先生の複素多様体の変形理論が重要な役割を果たします。このように、東京大学から誕生した数学が、現代の数学の最先端で重要な役割を果たしていることは、皆さんにとっても大きな

励みになることと思います。

現在、数学に対する社会の期待、ニーズは大変高まっています。ビッグデータの時代にあつて、確固たる数学に基づくデータ解析の手法や多くの分野で求められています。また、環境問題においては、複雑なふるまいをする流体の解析が必要であり、このような分野に大きく貢献する数学の理論を開発することは、これからの研究における重要な課題です。産業分野における問題については、これまでに成果が挙げられてきた解析的手法のみならず、代数学、幾何学などをも含めた新しい数理的な手法を創成することが求められています。皆さんがこれまでに取り組んでこられた数学は、まだまだ大きく発展し、これから今まで思いもよらなかった分野にも応用される可能性があります。

大学院を修了される皆さんにとって、これは大学との別れではなく、新たな協働の始まりでもあります。これからも数理科学研究科の発展に積極的に関わっていただきたいと思います。修士課程修了を修了して社会に出られる方は、今後、社会人博士などにも是非挑戦していただきたいと思います。また、博士課程を修了される方はポスドク研究員や大学の教員として、さらに研究をすすめるかたもいらっしゃると思いますが、今後のますますの研究の発展を期待致します。また、企業などに就職される方も、ご自身のこれまでの研究の経験を礎としてご活躍いただき、数学が社会で、実際にどのように使われているかを、是非、後輩の皆さんにお伝えいただきたいと考えています。

数理科学研究科学で学位を取得された皆さんが今後さまざまな分野でご活躍されることを祈念して私の祝辞といたします。学位の取得、誠におめでとうございます。

令和2年3月23日

東京大学大学院数理科学研究科長 河野俊丈